

[1] 以下の問いに答えなさい。

(1) つぎの式の値を求めなさい。

$$\left\{2(\sqrt{3}-\sqrt{2})^2(5+2\sqrt{6})+\frac{5+3\sqrt{3}}{7+4\sqrt{3}}\right\}^2 = \boxed{1} + \boxed{2}\sqrt{\boxed{3}}$$

(2)  $(x-2)(x-1)(x+3)(x+4)=36$  を解くと、

$$x = -\boxed{4}, -\boxed{5} \pm \sqrt{\boxed{6}\boxed{7}}$$

(3) 白玉 8 個と赤玉 4 個が入っている袋から、玉を 3 個同時に取り出すとき、取り出した玉が、白玉が 2 個かつ赤玉が 1 個である確率は  $\frac{\boxed{8}\boxed{9}}{\boxed{10}\boxed{11}}$  である。

$$\frac{\boxed{8}\boxed{9}}{\boxed{10}\boxed{11}}$$

(4)  $x$  に関する不等式  $\log_{\frac{1}{10}}(x+4) \leq \log_{10}(10-x)$  を解くと

$$\boxed{12} - \boxed{13}\sqrt{\boxed{14}} \leq x \leq \boxed{15} + \boxed{16}\sqrt{\boxed{17}}$$

である。

【解答】 (1)  $4+2\sqrt{3}$  (2)  $-1, -1 \pm \sqrt{13}$  (3)  $\frac{28}{55}$  (4)  $3-4\sqrt{3} \leq x \leq 3+4\sqrt{3}$

【解説】

$$\begin{aligned} (1) & \left\{2(\sqrt{3}-\sqrt{2})^2(5+2\sqrt{6})+\frac{5+3\sqrt{3}}{7+4\sqrt{3}}\right\}^2 \\ & = \left\{2(5-2\sqrt{6})(5+2\sqrt{6})+\frac{(5+3\sqrt{3})(7-4\sqrt{3})}{(7+4\sqrt{3})(7-4\sqrt{3})}\right\}^2 \\ & = \left\{2(25-24)+\frac{\sqrt{3}-1}{49-48}\right\}^2 \\ & = (1+\sqrt{3})^2 = 4+2\sqrt{3} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} (2) & (x-2)(x-1)(x+3)(x+4)=36 \\ & \iff (x^2+2x-8)(x^2+2x-3)=36 \\ & \text{ここで, } x^2+2x-8=A \text{ とおくと,} \\ & A(A+5)=36 \\ & \iff A^2+5A-36=0 \\ & \iff (A+9)(A-4)=0 \\ & \iff A=-9, 4 \end{aligned}$$

よって、 $x^2+2x+1=0$  または  $x^2+2x-12=0$  これを解くと  $x=-1$  (重解),  $x=-1 \pm \sqrt{13}$

(3) 白玉 8 個、赤玉 4 個の合計 12 個の玉の中から 3 個の玉を取り出すので、すべての玉を区別して考えるとき、その取り出し方は全部で

$${}_{12}C_3 \text{ 通り.}$$

また、白玉を 2 個、赤玉を 1 個取り出すのは、すべての玉を区別して考えると

$${}_8C_2 \times {}_4C_1 \text{ 通り}$$

よって求める確率は、

$$\frac{{}_8C_2 \times {}_4C_1}{{}_{12}C_3} = \frac{28}{55}$$

(4)  $\log_{\frac{1}{10}}(x+4) \leq \log_{10}(10-x) \dots \textcircled{1}$

真数条件より、 $x+4>0$  かつ  $10-x>0$  なので、 $-4<x<10 \dots \textcircled{2}$

このとき、 $\textcircled{1}$  を変形し、

$$\begin{aligned} \textcircled{1} & \iff -\log_{10}(x+4) \leq \log_{10}(10-x) \\ & \iff \log_{10}(10-x)(x+4) \geq 0 \\ & \iff (10-x)(x+4) \geq 1 \\ & \iff x^2-6x-39 \leq 0 \\ & \iff 3-4\sqrt{3} \leq x \leq 3+4\sqrt{3} \end{aligned}$$

これは  $\textcircled{2}$  を満たす。

[2] 以下の問いに答えなさい。

(1) 直線  $y=2x+k$  と曲線  $4x^2+y^2=16$  がちょうど 2 個の共有点をもつための  $k$  の値の

範囲は  $-\boxed{18}\sqrt{\boxed{19}} < k < \boxed{20}\sqrt{\boxed{21}}$  である。

(2) 数列  $\{a_n\}$  の初項から第  $n$  項までの和  $S_n$  が  $S_n = \frac{1}{24}(2n^3 - 75n^2 + 97n)$  ( $n \geq 1$ ) で与

えられるとする。  $a_n$  は  $n = \boxed{22}\boxed{23}$  のとき最小値  $-\boxed{24}\boxed{25}$  をとる。

(3)  $a, b$  を定数とする。

$$\lim_{x \rightarrow 2} \frac{\sqrt{x+a}-b}{x-2} = 2$$

であるならば、 $a = -\frac{\boxed{26}\boxed{27}}{\boxed{28}\boxed{29}}$ ,  $b = \frac{\boxed{30}}{\boxed{31}}$  である。

(4) 2 つの曲線  $y=-x^2+3$  および  $y=x^2-5x$  により囲まれる図形の面積は

$\frac{\boxed{32}\boxed{33}\boxed{34}}{\boxed{35}\boxed{36}}$  である。また、これら 2 つの曲線の交点をともに通る直線の方程式は

$$\boxed{37}x + \boxed{38}y = 3 \text{ である。}$$

【解答】 (1)  $-4\sqrt{2} < k < 4\sqrt{2}$  (2)  $n=13$ , 最小値  $-35$

$$(3) a = -\frac{31}{16}, b = \frac{1}{4} \quad (4) \text{面積} \frac{343}{24}, 5x+2y=3$$

【解説】

(1) 直線  $y=2x+k$  と楕円  $\frac{x^2}{4} + \frac{y^2}{16} = 1$  が 2 つの共有点をもつとき、この 2 つの図形を

$y$  軸方向に  $\frac{1}{2}$  倍して考えると、

$$\text{直線 } l': 2x-2y+k=0, \text{円 } C': x^2+y^2=4$$

が共有点を 2 つ持つことと同値である。したがって円  $C'$  の中心  $O$  と直線  $l'$  との距離を  $d$  とおくと、 $d < 2$  (=半径) が成り立てばよいので、

$$d = \frac{|k|}{\sqrt{2^2+(-2)^2}} < 2 \iff |k| < 4\sqrt{2} \iff -4\sqrt{2} < k < 4\sqrt{2}$$

(2)  $S_n = \frac{1}{24}(2n^3 - 75n^2 + 97n)$  ( $n \geq 1$ )

$n=1$  のとき、 $a_1 = S_1 = 1$  である。

$n \geq 2$  のとき、

$$a_n = S_n - S_{n-1} = \frac{1}{24}[(2n^3 - 75n^2 + 97n) - \{2(n-1)^3 - 75(n-1)^2 + 97(n-1)\}]$$

$$= \frac{1}{24}(6n^2 - 156n + 174) = \frac{1}{4}(n^2 - 26n + 29)$$

この式は、 $n=1$  のとき  $a_1=1$  を満たす。ここで、

$$a_n = \frac{1}{4}(n-13)^2 - 35$$

と変形できるので、 $n=13$  のときに最小値  $-35$  をとる。

(3)  $\lim_{x \rightarrow 2} \frac{\sqrt{x+a}-b}{x-2} = 2$

このとき、

$$\lim_{x \rightarrow 2} \frac{\sqrt{x+a}-b}{x-2} \cdot (x-2) = 2 \cdot \lim_{x \rightarrow 2} (x-2) = 0$$

$$\iff \lim_{x \rightarrow 2} (\sqrt{x+a}-b) = 0$$

$$\iff \sqrt{2+a} = b$$

したがって、

$$\begin{aligned} (\text{左辺}) &= \lim_{x \rightarrow 2} \frac{\sqrt{x+a}-\sqrt{2+a}}{x-2} = \lim_{x \rightarrow 2} \frac{x+a-(2+a)}{(x-2)(\sqrt{x+a}+\sqrt{2+a})} \\ &= \lim_{x \rightarrow 2} \frac{1}{\sqrt{x+a}+\sqrt{2+a}} = \frac{1}{2\sqrt{2+a}} = 2 \end{aligned}$$

これを解くと、

$$\frac{1}{2\sqrt{2+a}} = 2 \iff \sqrt{2+a} = \frac{1}{4} \iff a = -\frac{31}{16}$$

このとき、 $b = \frac{1}{4}$  である。

(4)  $y=-x^2+3$  と  $y=x^2-5x$  の交点の  $x$  座標を求めると、

$$-x^2+3=x^2-5x \iff 2x^2-5x-3=0 \iff x = -\frac{1}{2}, 3$$

したがって、2 つの曲線により囲まれる図形の面積は、

$$\begin{aligned} \int_{-\frac{1}{2}}^3 \{(-x^2+3)-(x^2-5x)\} dx &= -2 \int_{-\frac{1}{2}}^3 \left(x + \frac{1}{2}\right)(x-3) dx \\ &= -2 \cdot \left(-\frac{1}{6}\right) \left(3 + \frac{1}{2}\right)^3 = \frac{343}{24} \end{aligned}$$

また、2 曲線の 2 交点を通る図形の方程式を実数  $k$  を用いて、

$$(y+x^2-3)+k(y-x^2+5x)=0$$

と表すことができる。ここで、 $k=1$  を代入すると  $x^2$  の項が消えて  $x, y$  の 1 次方程式となるが、これが求める直線の方程式に他ならない。

$$(y+x^2-3)+(y-x^2+5x)=0 \iff 5x+2y=3$$

[3]  
 $AB=3, BC=6, CA=5$ である三角形  $ABC$ において、頂点  $A$  から辺  $BC$ に垂線  $AD$ を引く。三角形  $ABD$  の内接円の中心を  $O_1$ とし半径を  $r_1$ で表す。また、三角形  $ADC$  の内接円の中心を  $O_2$ とし半径を  $r_2$ で表す。

(1)  $AD = \frac{39}{3} \sqrt{\frac{40}{41}}$ ,  $r_1 = \frac{\sqrt{42} \cdot \frac{43}{45} - \frac{44}{45}}{45}$ ,  $r_2 = r_1 + \frac{46}{47}$  である。

(2) 内接円  $O_1$  と辺  $AB$  との接点を  $E$ , 内接円  $O_2$  と辺  $CA$  との接点を  $F$  とするとき、

$AE = \frac{\sqrt{48} \cdot \frac{49}{51} + \frac{50}{51}}{51}$ ,  $AF = AE - \frac{52}{53}$  である。

(3)  $AO_1$  と  $AO_2$  のなす角を  $\theta$  で表すとき、 $\cos \theta = \frac{\sqrt{54} \cdot \frac{55}{56} + \frac{56}{56}}{15}$  である。

また、三角形  $AO_1O_2$  の面積は  $\frac{57}{58}$  である。

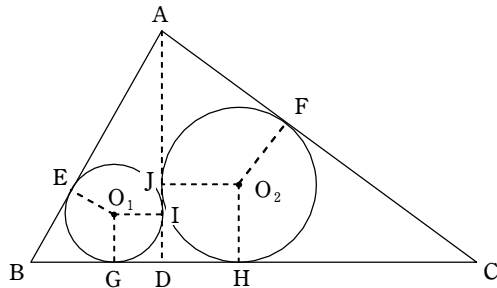
【解答】 (1)  $AD = \frac{2\sqrt{14}}{3}$ ,  $r_1 = \frac{\sqrt{14}-2}{3}$ ,  $r_2 = r_1 + \frac{1}{3}$

(2)  $AE = \frac{\sqrt{14}+2}{3}$ ,  $AF = AE - \frac{1}{3}$

(3)  $\cos \theta = \frac{\sqrt{105}}{15}$ , 面積  $\frac{4}{3}$

【解説】

下の図のように接点を  $G, H, I, J$  とする。



(1)  $\triangle ABC$  で余弦定理を用いると、

$$\cos \angle ABC = \frac{3^2 + 6^2 - 5^2}{2 \cdot 3 \cdot 6} = \frac{5}{9}$$

したがって、 $\sin \angle ABC = \frac{2\sqrt{14}}{9}$  であり、 $\triangle ABD$  において、

$$BD = AB \times \cos \angle ABC = \frac{5}{3}$$

$$AD = AB \times \sin \angle ABC = \frac{2\sqrt{14}}{3}$$

また、 $AE=AI=a, BE=BG=b$  とおくと、

$$AB = a + b, BD = b + r_1, AD = a + r_1$$

であり、これを利用して

$$AB + BD + AD = 2a + 2b + 2r_1 = 3 + \frac{5}{3} + \frac{2\sqrt{14}}{3}, a + b = 3$$

よって、 $r_1 = \frac{\sqrt{14}-2}{3}$ .

同様に、 $AF=AJ=c, CH=CF=d$  とおくと、

$$AD + CD + AC = 2c + 2d + 2r_2 = \frac{2\sqrt{14}}{3} + \frac{13}{3} + 5, c + d = 5$$

よって、 $r_2 = \frac{\sqrt{14}-1}{3} = r_1 + \frac{1}{3}$ .

(2) (1)より

$$AE = AD - r_1 = \frac{\sqrt{14}+2}{3}$$

$$AF = AD - r_2 = AE - \frac{1}{3}$$

(3) 線分  $AO_1$  は  $\angle BAD$  の2等分線であり、また線分  $AO_2$  は  $\angle CAD$  の2等分線である。

したがって、

$$\angle BAC = \angle BAD + \angle DAC = 2 \times \angle O_1AD + 2 \times \angle O_2AD = 2\theta$$

余弦定理より

$$\cos \angle BAC = \frac{3^2 + 5^2 - 6^2}{2 \cdot 3 \cdot 5} = -\frac{1}{15}$$

よって、 $\cos 2\theta = -\frac{1}{15}$ .

これを用いて、 $\cos^2 \theta = \frac{1 + \cos 2\theta}{2} = \frac{7}{15}$

$\theta$  は明らかに鋭角であり、 $\cos \theta > 0$ . よって、 $\cos \theta = \frac{\sqrt{105}}{15}$ .

また、 $AI = AE = \frac{\sqrt{14}+2}{3}$ ,  $AJ = AF = \frac{\sqrt{14}+1}{3}$  より

$$AO_1 = \sqrt{AI^2 + r_1^2} = \sqrt{\left(\frac{\sqrt{14}+2}{3}\right)^2 + \left(\frac{\sqrt{14}-2}{3}\right)^2} = 2$$

$$AO_2 = \sqrt{AJ^2 + r_2^2} = \sqrt{\left(\frac{\sqrt{14}+1}{3}\right)^2 + \left(\frac{\sqrt{14}-1}{3}\right)^2} = \frac{\sqrt{30}}{3}$$

よって、 $\triangle AO_1O_2 = \frac{1}{2} \cdot 2 \cdot \frac{\sqrt{30}}{3} \cdot \frac{2\sqrt{2}}{\sqrt{15}} = \frac{4}{3}$ .

【(3)の別解】

線分  $O_1O_2$  と線分  $AD$  の交点を  $K$  とおく。

$\triangle O_1IK \sim \triangle O_2JK$  であるから

$$IK : JK = r_1 : r_2$$

したがって、

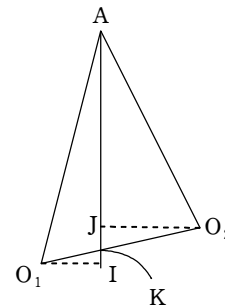
$$AK = AJ + JK = AJ + IJ \times \frac{r_2}{r_1 + r_2}$$

$$= AF + (AI - AJ) \times \frac{r_2}{r_1 + r_2}$$

$$= AF + (AE - AF) \times \frac{r_2}{r_1 + r_2}$$

$$\triangle AO_1O_2 = \triangle AKO_1 + \triangle AKO_2 = \frac{1}{2} \times AK \times IO_1 + \frac{1}{2} \times AK \times JO_2$$

$$= \frac{1}{2} \times AK \times (IO_1 + JO_2)$$



$$\begin{aligned} &= \frac{1}{2} \left\{ AF + (AF - AE) \times \frac{r_2}{r_1 + r_2} \right\} \times (r_1 + r_2) \\ &= \frac{1}{2} \left\{ \frac{\sqrt{14}+1}{3} (r_1 + r_2) + \frac{1}{3} \times r_2 \right\} \\ &= \frac{1}{2} \left( \frac{\sqrt{14}+1}{3} \cdot \frac{2\sqrt{14}-3}{3} + \frac{1}{3} \cdot \frac{\sqrt{14}-1}{3} \right) \\ &= \frac{4}{3} \end{aligned}$$

[4]  
直線  $l: y = -x + 3$  および曲線  $C: y = \frac{1}{\sqrt{x-1}}$  (ただし,  $x > 1$ ) について, 以下の問いに答えなさい.

- (1) 点  $(3, 0)$  を通り曲線  $C$  と接する接線の方程式を  $y = ax + b$  とおくと,  $a$  と  $b$  の値を求めなさい.
- (2)  $l$  と  $C$  の交点の座標をすべて求めなさい.
- (3)  $l$  と  $C$  で囲まれる図形の面積を求めなさい.

【解答】(1)  $a = -\frac{3\sqrt{6}}{8}$ ,  $b = \frac{9\sqrt{6}}{8}$  (2)  $(2, 1)$ ,  $(\frac{5-\sqrt{5}}{2}, \frac{1+\sqrt{5}}{2})$  (3)  $\frac{5\sqrt{5}-11}{4}$

【解説】

$$l: y = -x + 3, C: y = \frac{1}{\sqrt{x-1}}$$

(1)  $f(x) = \frac{1}{\sqrt{x-1}}$  とおく. ( $x > 1$ )

$$f'(x) = -\frac{1}{2(x-1)\sqrt{x-1}}$$

$y = f(x)$  上の点  $(t, f(t))$  における接線の方程式は,

$$y - f(t) = f'(t)(x - t)$$

$$y - \frac{1}{\sqrt{t-1}} = -\frac{1}{2(t-1)\sqrt{t-1}}(x - t)$$

この接線が点  $(3, 0)$  を通るとき,

$$-\frac{1}{\sqrt{t-1}} = -\frac{1}{2(t-1)\sqrt{t-1}}(3-t)$$

$$\Leftrightarrow 2(t-1) = 3-t \Leftrightarrow t = \frac{5}{3}$$

$$\text{よって, } a = -\frac{1}{2\left(\frac{5}{3}-1\right)\sqrt{\frac{5}{3}-1}} = -\frac{3\sqrt{6}}{8}$$

また, 直線  $y = ax + b$  が点  $(3, 0)$  を通るので,  $b = -3a = \frac{9\sqrt{6}}{8}$ .

(2)  $l$  と  $C$  の交点の  $x$  座標を求めると,

$$-x + 3 = \frac{1}{\sqrt{x-1}}$$

$1 < x < 3$  において, 両辺ともに正であり, 平方しても同値であるから

$$(-x+3)^2 = \frac{1}{x-1}$$

$$\Leftrightarrow (x^2 - 6x + 9)(x-1) = 1$$

$$\Leftrightarrow x^3 - 7x + 15x - 10 = 0$$

$$\Leftrightarrow (x-2)(x^2 - 5x + 5) = 0$$

$$\Leftrightarrow x = 2, \frac{5 \pm \sqrt{5}}{2}$$

このうち,  $1 < x < 3$  を満たすのは  $x = 2, \frac{5-\sqrt{5}}{2}$  であり, 交点の座標は

$$(2, 1), \left(\frac{5-\sqrt{5}}{2}, \frac{1+\sqrt{5}}{2}\right)$$

いま,  $\frac{5-\sqrt{5}}{2} \leq x \leq 2$  において,  $-x + 3 \geq \frac{1}{\sqrt{x-1}}$  であるから, 求める面積  $S$  は,

$$\begin{aligned} S &= \int_{\frac{5-\sqrt{5}}{2}}^2 \left\{ (-x+3) - \frac{1}{\sqrt{x-1}} \right\} dx \\ &= \left[ -\frac{1}{2}x^2 + 3x - 2\sqrt{x-1} \right]_{\frac{5-\sqrt{5}}{2}}^2 \\ &= (-2+6-2) - \left\{ -\frac{1}{2}\left(\frac{5-\sqrt{5}}{2}\right)^2 + 3 \cdot \frac{5-\sqrt{5}}{2} - 2\sqrt{\frac{5-\sqrt{5}}{2}-1} \right\} \\ &= 2 + \frac{1}{8}(30-10\sqrt{5}) - \frac{15-3\sqrt{5}}{2} + \sqrt{6-2\sqrt{5}} \\ &= 2 + \frac{15}{4} - \frac{5\sqrt{5}}{4} - \frac{15}{2} + \frac{3\sqrt{5}}{2} + \sqrt{5} - 1 = \frac{5\sqrt{5}-11}{4} \end{aligned}$$

[5]

1 辺の長さが 1 の正四面体  $OABC$  において, 辺  $OB$  上に点  $D$  をとり, 線分  $AD$  と線分  $AB$  のなす角を  $x$  で表す. また, 辺  $OC$  の中点を  $E$  とする.  $\vec{AB} = \vec{a}$ ,  $\vec{AC} = \vec{b}$ ,  $\vec{AO} = \vec{c}$  とおくと, 以下の問いに答えなさい.

- (1)  $\vec{AD}$  を  $\vec{a}$ ,  $\vec{c}$  および  $\tan x$  を用いて表しなさい.
- (2)  $\angle DAE = \theta$  とおくと,  $\cos \theta$  を  $x$  を用いて表し,  $\cos \theta$  の最大値を求めなさい.
- (3) 三角形  $ADE$  の面積を  $\tan x$  の関数として表し, その面積の最小値を与える  $\tan x$  の値を求めなさい.

【解答】(1)  $\frac{\sqrt{3}-\tan x}{\sqrt{3}+\tan x}\vec{a} + \frac{2\tan x}{\sqrt{3}+\tan x}\vec{c}$

(2)  $\cos \theta = \frac{\sqrt{3}}{3}\cos x + \frac{2}{3}\sin x$ , 最大値  $\frac{\sqrt{7}}{3}$

(3) 面積  $\frac{1}{4}\sqrt{\frac{6-4\sqrt{3}\tan x+5\tan^2 x}{3+2\sqrt{3}\tan x+\tan^2 x}}$ ,  $\tan x = \frac{4\sqrt{3}}{7}$

【解説】

(1)  $\triangle OAB$  において, 右の図のように座標軸を設定する.  $OD:DB = t:(1-t)$  と置くと, 点  $D$  は  $XY$  座標上において 2 直線  $Y = (\tan x)X$ ,  $Y = -\sqrt{3}(X-1)$  の交点なので,

$$\begin{aligned} (\tan x)X &= -\sqrt{3}(X-1) \\ \Leftrightarrow X &= \frac{\sqrt{3}}{\sqrt{3}+\tan x} \dots\dots \textcircled{1} \end{aligned}$$

また, 点  $D$  の  $X$  座標は  $t$  を用いて表すと,

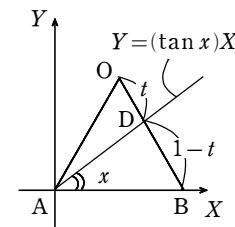
$$X = \frac{1}{2} + \frac{t}{2}$$

であるから,

$$\frac{1}{2} + \frac{t}{2} = \frac{\sqrt{3}}{\sqrt{3}+\tan x} \Leftrightarrow t = \frac{\sqrt{3}-\tan x}{\sqrt{3}+\tan x}$$

点  $D$  は  $OB$  を  $t:(1-t)$  に内分する点なので,

$$\begin{aligned} \vec{AD} &= (1-t)\vec{AO} + t\vec{AB} \\ &= \frac{\sqrt{3}-\tan x}{\sqrt{3}+\tan x}\vec{a} + \frac{2\tan x}{\sqrt{3}+\tan x}\vec{c} \end{aligned}$$



【(1)の別解】

$$\begin{aligned} OD:DB &= (\triangle OAD \text{ の面積}) : (\triangle BAD \text{ の面積}) \\ &= \frac{1}{2} \cdot 1 \cdot AD \cdot \sin\left(\frac{\pi}{3} - x\right) : \frac{1}{2} \cdot 1 \cdot AD \cdot \sin x \\ &= \sin\left(\frac{\pi}{3} - x\right) : \sin x \\ &= \frac{\sqrt{3}}{2}\cos x - \frac{1}{2}\sin x : \sin x \\ &= \frac{\sqrt{3}}{2} - \frac{1}{2}\tan x : \tan x \end{aligned}$$

よって,  $\vec{AD} = \frac{\sqrt{3}-\tan x}{\sqrt{3}+\tan x}\vec{a} + \frac{2\tan x}{\sqrt{3}+\tan x}\vec{c}$

(2)  $\cos \theta = \frac{\vec{AD} \cdot \vec{AE}}{|\vec{AD}| |\vec{AE}|}$  である. (1) より

$$AD = X \times \frac{1}{\cos x} = \frac{\sqrt{3}}{(\sqrt{3}+\tan x)\cos x} \quad (\because \textcircled{1})$$

$$\vec{AD} \cdot \vec{AE} = \{t\vec{a} + (1-t)\vec{c}\} \cdot \frac{\vec{b} + \vec{c}}{2}$$

$$= \frac{1}{2}\{t\vec{a} \cdot \vec{b} + t\vec{a} \cdot \vec{c} + (1-t)\vec{b} \cdot \vec{c} + (1-t)|\vec{c}|^2\}$$

$$\vec{a} \cdot \vec{b} = \vec{a} \cdot \vec{c} = \vec{b} \cdot \vec{c} = \frac{1}{2}, |\vec{c}| = 1 \text{ なので}$$

$$\vec{AD} \cdot \vec{AE} = \frac{3-t}{4}$$

したがって,

$$\begin{aligned} \cos \theta &= \frac{\frac{1}{3}\left(3 - \frac{\sqrt{3}-\tan x}{\sqrt{3}+\tan x}\right)}{\frac{\sqrt{3}}{(\sqrt{3}+\tan x)\cos x} \cdot \frac{\sqrt{3}}{2}} \\ &= \frac{\cos x\{3(\sqrt{3}+\tan x) - (\sqrt{3}-\tan x)\}}{6} \\ &= \frac{\cos x(2\sqrt{3}+4\tan x)}{6} \\ &= \frac{\sqrt{3}}{3}\cos x + \frac{2}{3}\sin x \end{aligned}$$

また, このとき,

$$\cos \theta = \frac{\sqrt{7}}{3}\sin(x+\alpha) \quad \left(\text{ただし } \cos \alpha = \frac{2}{\sqrt{7}}, \sin \alpha = \frac{\sqrt{3}}{\sqrt{7}}, \frac{\pi}{6} < \alpha < \frac{\pi}{4}\right)$$

と変形できる.  $0 < x < \frac{\pi}{3}$  で  $x$  を変化させるとき,  $x+\alpha = \frac{\pi}{2}$  となる  $x$  があり,  $\cos \theta$  の最大値は  $\frac{\sqrt{7}}{3}$ .

(3) (2) より  $\cos \theta = \frac{\sqrt{3}}{3}\cos x + \frac{2}{3}\sin x$  であるから,

$$\sin \theta = \sqrt{1 - \cos^2 \theta} = \sqrt{1 - \left(\frac{\sqrt{3}}{3}\cos x + \frac{2}{3}\sin x\right)^2}$$

$$= \sqrt{1 - \frac{1}{3}\cos^2 x - \frac{4\sqrt{3}}{9}\sin x \cos x - \frac{4}{9}\sin^2 x}$$

これを用いて、△ADEの面積Sは、

$$S = \frac{1}{2} \cdot \frac{\sqrt{3}}{2} \cdot \frac{\sqrt{3}}{(\sqrt{3} + \tan x)\cos x} \cdot \sqrt{1 - \frac{1}{3}\cos^2 x - \frac{4\sqrt{3}}{9}\sin x \cos x - \frac{4}{9}\sin^2 x}$$

$$= \frac{\sqrt{3}}{4} \cdot \frac{1}{\sqrt{3} + \tan x} \sqrt{\frac{1}{\cos^2 x} - \frac{1}{3} - \frac{4\sqrt{3}}{9}\tan x - \frac{4}{9}\tan^2 x}$$

$$= \frac{1}{4} \sqrt{\frac{6 - 4\sqrt{3}\tan x + 5\tan^2 x}{3 + 2\sqrt{3}\tan x + \tan^2 x}}$$

ここで、 $1 + \frac{1}{\sqrt{3}}\tan x = t$  とおくと

$$f(t) = \frac{6 - 4\sqrt{3}\tan x + 5\tan^2 x}{3 + 2\sqrt{3}\tan x + \tan^2 x} = \frac{6 - 4\sqrt{3}(\sqrt{3}t - \sqrt{3}) + 5(\sqrt{3}t - \sqrt{3})^2}{(\sqrt{3} + \tan x)^2}$$

$$= \frac{6 - 12t + 12 + 15(t^2 - 2t + 1)}{(\sqrt{3}t)^2} = \frac{15t^2 - 42t + 33}{3t^2} = \frac{5t^2 - 14t + 11}{t^2}$$

$$= \frac{11}{t^2} - \frac{14}{t} + 5 = 11\left(\frac{1}{t} - \frac{7}{11}\right)^2 + \frac{6}{11}$$

したがって、 $S = \frac{1}{4}\sqrt{f(t)}$  は  $t = \frac{11}{7}$  のとき、最小値  $\frac{1}{4}\sqrt{\frac{6}{11}}$  をとる。

このとき、 $\tan x = \sqrt{3}(t-1) = \frac{4\sqrt{3}}{7}$ 。

【講評】

- ①② (小問集合)  
例年通りの小問集合であり、すべて基本問題といってよい。1問も落とせない。
- ③ (平面図形)  
計算が煩雑だが、マークシートであることを考えると、(2)までは正解したい。
- ④ (数Ⅲ微分法, 積分法)  
方針は極めて基本的であるが、計算を確実に実行できるかが問われる。
- ⑤ (空間ベクトル)  
計算が非常に煩雑であり、得点は難しい問題。方針は立てられても、複雑な計算を最後までやり切れるかが問われる。(1)も平面図形における発想を必要とし、今回の大問の中で一番難しい問題だったと考えられる。
- 全体として、計算力・計算速度が問われる出題になっている。計算を間違ってしまうと、時間が足りなくなる。ただし、①②は非常に簡単な問題であるため、ここを素早く解くことができるかがポイントになる。⑤以外はしっかり点数を取りたい。計算ミスなども考慮すると、一次合格ラインは65%程度と考えられる。

## 二次で勝つならYMSの 二次試験対策

2/15(金)  
17:00 ~ 19:15頃  
日大A

対策  
内容

- 二次試験の要点解説
- 個人面接対策
- 小論文対策

二次の  
ポイント

日本大学の面接では、一般的な質問の他に時事問題や医療問題なども問われます。本講座では想定される質問の要点を押さえ、本番に即した面接演習を行います。また実際の試験と同じ時間設定で小論文を執筆し、添削もその場で行います。

【申込方法】・一次試験合格者が対象です。  
・受付開始は各大学ともに一次の結果発表以降となります。  
・お電話(03-3370-0410)でご予約下さい。

申し込み受付中です。詳細はYMSホームページをご覧ください。お電話にてお問い合わせください。